

《報告事項》

- (1) オンライン診療を希望されるすべてのへき地診療所に
- (2) シンプル脳ドックの実施状況及び来年度の実施について
- (3) 企業団寄附制度の創設について
- (4) 電子処方箋及び電子カルテ情報共有サービスについて
- (5) 自治体立優良病院総務大臣表彰の受賞について

オンライン診療を希望されるすべてのへき地診療所に【機器・ソフトを無償貸与】

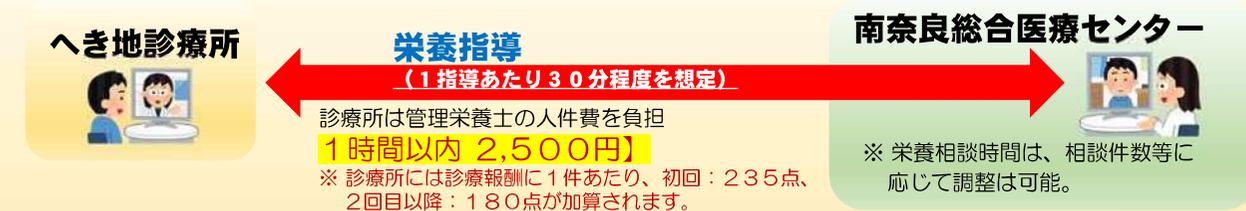


南和広域医療企業団では、**下北山村・上北山村・黒滝村**の各へき地診療所との間で運用を開始しているオンライン診療を、令和8年度より、希望されるすべてのへき地診療所に拡大（機器・ソフトは南和広域医療企業団より無償貸与）し、**オンラインによる栄養指導**や**オンライン診療**により**診療所の診療機能向上**につなげるほか、災害時にも途切れることなく医療を提供できる体制の構築を目指します。



オンライン診療の活用

1. オンライン栄養指導 毎週水曜日の14時～16時



2. オンライン診療 ～診療所の休診日等でも必要に応じて診療～



さらに将来的には

オンライン診療の可能性(専門診療など)



オンライン診療が行える体制を整備・活用しながら、日頃の運用によってスタッフの習熟を重ねていくことで、将来的には南奈良総合医療センター専門科外来通院患者の診療の一部（検査等が不要な診療等）を、オンラインを使用して、自宅に近いへき地診療所で行ったり、オンラインの認知症外来をへき地診療所に対して実施したりといったことも可能となります。

また、今後の技術革新によって専門的なオンライン診療機器を搭載した車で専門診療の巡回診療を行ったり、薬をドローンで配送したりと様々な可能性が広がります。



シンプル脳ドックの実施状況及び来年度の実施について



構成市町村にお住まいの方を対象に、本年度から実施させていただいている「シンプル脳ドック（頭部MRI検査）」について、実施状況を報告いたします。

シンプル脳ドック各市町村別受付人数

市町村名	受付人数	負担金請求予定額	備考
五條市	137人	1,370,000円	
吉野町	42人	420,000円	
大淀町	161人	1,610,000円	
下市町	47人	470,000円	
黒滝村	0人	0円	
天川村	31人	310,000円	
野迫川村	1人	10,000円	
十津川村	15人	150,000円	
下北山村	8人	80,000円	
上北山村	6人	60,000円	
川上村	16人	160,000円	
東吉野村	18人	180,000円	
合計	482人	4,820,000円	

※ 上記数値は今後キャンセル及び転居等の可能性もあるため年度内変動が生じる可能性があります。

予約受付終了後のお断り件数

	5月	6月	7月	8月
件数	157	57	15	7

寄せられた主なご意見・ご質問

- 来年度もシンプル脳ドックはあるのか？
- 増枠して受けやすくしてほしい など

予約受付開始から終了までの流れ

5月1日（木）予約受付開始

- 受付開始と共に電話が殺到。電話がつながらない状況が発生
- 予約受付には住所・氏名・生年月日・保険証番号など聞き取りに5分以上の時間が必要で予約受付が進まず電話がつながらない状況が更に悪化
- 一旦電話にて氏名と電話番号のみ伺って受付し、後に折り返し電話をかけて詳細を聞き取り予約確定とする方式に変更
- 約90名の予約を受ける

5月2日（金）

- 電話受付、折り返し方式の受け付けを徹底して約190名の仮予約を受ける

5月3日（土）～5月6日（祝）はGWのため休み

5月7日（水）予約受付再開

5月8日（木）予約受付終了

- 2日間で約200名の仮予約受付。最大検査枠（約500名程度）を超過する恐れが出たため、5月8日いっぱいをもって受付終了

5月9日（金）

- 予約終了をホームページでお知らせ
- 各構成団体あて通知
- 折り返し電話による予約確定作業を開始

5月15日（木）

- 各構成団体別予約数を送付

実施状況（6月1日～8月31日）

受診者数 180名

五條市：51名 吉野町：7名 大淀町：68名
 下市町：20名 黒滝村：0名 天川村：15名
 野迫川村：1名 十津川村：6名 下北山村：2名
 上北山村：4名 川上村：1名 東吉野村：5名

結果判定

A異常なし：91名
 B軽度異常：支障なし48名
 C経過観察：23名
 D1/D2要治療・要精査：18名

企業団といたしましては、受診を希望される声が多くあることから、令和8年度も引き続き、構成団体様のご協力のもと当該事業を実施させていただきたいと考えています。また、本年度の反省を踏まえてより円滑な実施を目指したいと考えています。

企業団寄附制度の創設について

■ 目的

企業団の将来にわたる設備更新等に係る財源を確保し、南和地域の医療の充実、安全・安心な医療の提供に資するため、「企業団寄附制度」を創設します。

■ 開始時期(予定)

令和7年12月1日

■ 広報

企業団HP、広報誌、院内掲示等

■ 受け入れる寄附(金品・物品)

快適な診療環境の整備



医療機器の整備



医療者の研究・研修環境の整備



■ 寄附受入れの流れ



※寄附受入れ状況は、企業団HPや広報誌等で公表を予定しています。

■ 税法上の優遇措置について

寄附者は、受領書により申告手続き時に税法上の優遇措置を受けることが可能です。

<個人の場合>

寄附金額の2,000円を超える額について、当該年所得の40%を限度に所得控除の対象になります。

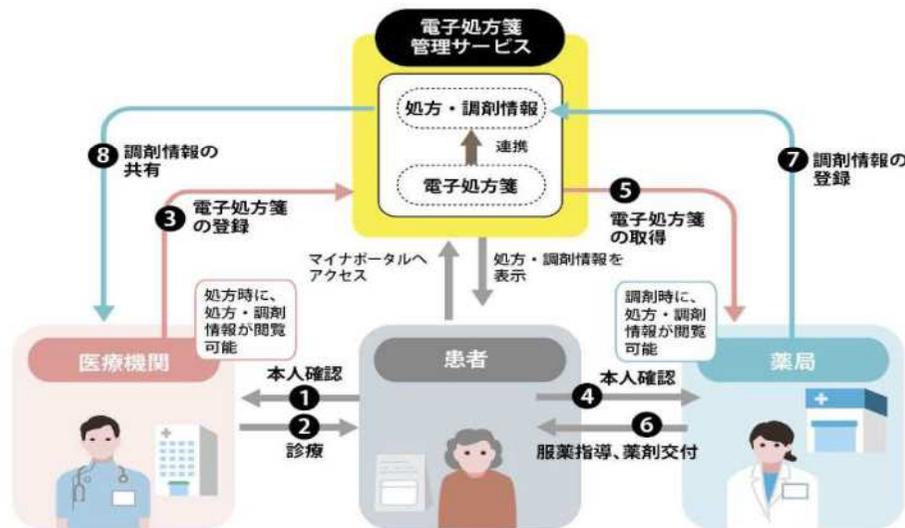
<法人の場合>

寄附金額の全額損金算入が可能です。

電子処方箋及び電子カルテ情報共有サービスについて



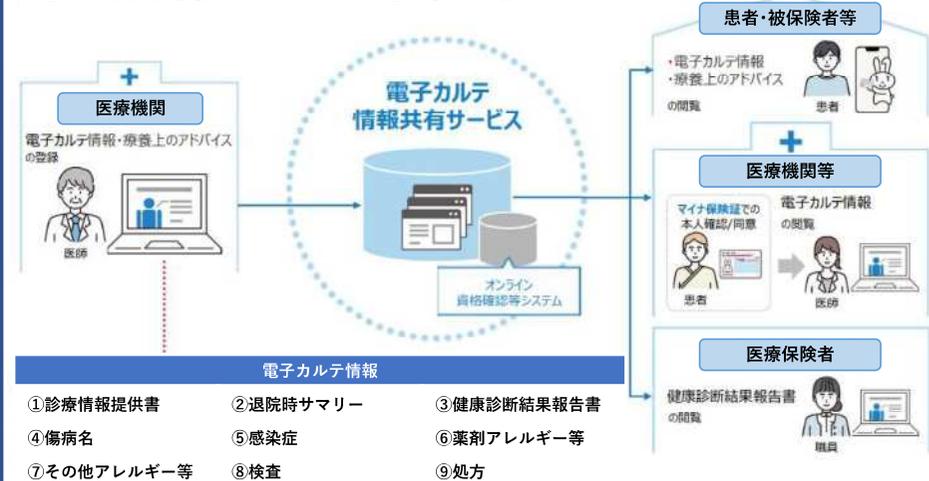
患者さんにとって役立つ医療情報を共有する基盤づくりのため、国が推進する「医療DXの実現」を目標に、企業団が取り組んでいる事業の現況について報告します。



- 電子処方箋システムを整備済
(国及び県補助金を申請済)
- 計5回の運用テストを実施(R7年2~4月)
- HPKIカード*の申請(R6年7月~)
 - ※ 国が進めているHPKIカード発行が遅延
 - また、医療機関の電子処方箋導入目標は後倒しになっている
(R7年7月 厚生労働省発表)
- HPKIカード*の到着を経て運用開始予定
 - * 保健医療福祉分野の公的資格を証明するためのカード (医師資格証)

電子処方箋管理サービス

企業団3病院・南和病院・秋津鴻池病院の5病院で
厚生労働省のモデル事業へ参画



- 電子カルテ情報
- ① 診療情報提供書
 - ② 退院時サマリー
 - ③ 健康診断結果報告書
 - ④ 傷病名
 - ⑤ 感染症
 - ⑥ 薬剤アレルギー等
 - ⑦ その他アレルギー等
 - ⑧ 検査
 - ⑨ 処方

- システム開発に関する契約締結(R7年4月~)
連携するサーバのネットワーク接続確認が完了
開発中システムは9割の検証が完了(9月末時点)
- 10月末の運用開始を目指して準備中



- 今後、各病院間で同じ電子カルテ情報を閲覧できることになり、他病院における過去の医療情報を活用した質の高い医療提供が実現可能

電子カルテ情報共有サービス



令和7年6月12日、南奈良総合医療センターが「令和7年度自治体立優良病院総務大臣表彰」を受賞しました。

この表彰は、前年度に自治体立優良病院表彰（会長表彰）を受賞した病院の中から、引き続き経営の健全性が確保されている病院に対し贈られるものです。

今回の受賞は「断らない救急」や「面倒見のいい病院」、「へき地支援ナース」や「オンライン診療」などの取り組みによって地域医療に貢献をし、かつ、経営努力によって令和元年度以降黒字経営を行っていることが評価され実現したものです。構成団体様の日頃からのご支援に感謝申し上げます。

今後も企業団一体となり、引き続き南和地域を支える存在として「断らない救急」「面倒見のいい病院」を掲げ、質の高い医療を提供できますよう、職員一同一丸となって努力してまいります。

令和7年度 自治体立優良病院総務大臣表彰受賞病院一覧

都道府県	施設名称	許可病床数	不採算地区
神奈川県	地方独立行政法人神奈川県立病院機構 神奈川県立精神医療センター	323床	非該当
兵庫県	地方独立行政法人神戸市民病院機構 神戸アイセンター病院	30床	非該当
奈良県	南和広域医療企業団 南奈良総合医療センター	232床	該当



被表彰病院の特徴（南奈良総合医療センター）

全国自治体病院協議会報道発表資料より

- 救急医療では、年間3,500件以上の救急車及びドクターヘリによる搬送を受け入れており、南和地域の救急搬送応需率90%以上を確保し「断らない病院」として24時間、内科系医師及び外科系医師を配置し、救急医療の提供を行っている。また、奈良県全域をカバーするため運航管理室が置かれ、フライトドクター・フライトナースが常駐している。
- へき地医療では、専任担当官が常駐し拠点病院として巡回診療や代診医派遣を行っている。さらに、へき地診療所看護師が休暇取得等により不在となった際に、南奈良総合医療センターの看護師が診療所に赴き診療を支援する「へき地支援ナース」制度も看護師の要請が進み軌道に乗っている。
- 感染症内科医師と感染管理認定看護師が院外の施設などへ出向き、新型コロナウイルスも含め感染対策について指導の取組も行っている。
- 奈良県立医科大学、自治医科大学等の卒後臨床研修、総合診療専門研修や各専門医などの医師養成に力を入れており、臨床研修プログラム「南和まるごと研修」により全職員一丸となって研修医教育を実践した結果、令和2年度から令和6年度までの間に11名の臨床研修修了者を輩出し、うち4名が当院の総合診療専門研修専攻医として引き続き南和地域の医療に従事している。